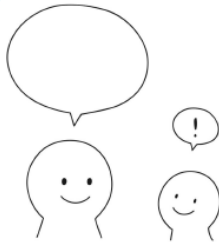


全校生徒で人権について考えました。

illuminate of Human Rights 哲学対話ガイドブック



- 01 話し合いをふりかえてみましょう。
- 02 話し合い活動のなかのネガティブ感情
- 03 <話し合い活動>と<人権尊重>
- 04 「哲学対話」って、いったいなに？
- 05 「哲学対話」と「話し合い活動」は同じなの？
- 06 「哲学対話」と「我等の目標」がつながる？
- 07 「考えたい問い」こそが大事です
- 08 「考えたい問い」の考え方
- 09 あなたの「考えたい問い」は？
- 10 「みんなで考えたい問い」を決めよう
- 11 哲学対話のルールって？
- 12 哲学対話をふりかえろう



年 級 番

「考えたい問い」の考え方

15

<p>言葉の意味を明確にする</p> <p>〇〇とは何か？ 〇〇とはどういうことか？ 〇〇であるとはどういうことか？</p>	<p>理由や根拠や目的を考える</p> <p>なぜ〇〇なのか？ なぜ〇〇と言う(思う・感じる)のか？ 〇〇はいったい何のためにあるのか？</p>	<p>具体的に考える</p> <p>たとえば、どういうことか？ 具体的にどのようなことなのか？ たとえば、どのようなものがあるのか？</p>
---	---	---

「考えたい問い」の考え方

16

<p>反対の事例を考える</p> <p>普通はこうだが、そうではない場合はないか？ 普通はこう考えられているが、別の可能性はないか？</p>	<p>関係を問う</p> <p>〇〇と▽▽はどのように関係しているか？ 〇〇であると、▽▽ということになるのか？</p>	<p>違いを問う</p> <p>〇〇と△△はどのように違うのか？ どこまでが〇〇で、どこからが△△なのか？</p>
---	---	--

話し合い活動のなかのネガティブ感情

7

- (1) 話し合い活動をしているとき、私たちはいろいろな「ネガティブ感情」を抱きます。たとえば、次のような場面です。

「な～んか、流されてる…」自分の意見をじっくりと聴いてもらえなかった場面

「言っていないかな…」自分の考えを伝えることをためらってしまう場面

「ちゃんとやってよ…」メンバーの一部(多く)が話し合いに参加してくれない場面

「ぜんぜんまともじゃない…」話し合いがうまくまともにならない場面

「もうそれでいいが～…」誰かの考えがそのままグループの考えになる場面

「人で選んででしょ…」<論>ではなく<人>で意見の重みが決まる場面

- (2) これらの場面に共通している問題があります。それはいったい、何なのでしょう。

<話し合い活動>と<人権尊重>

8

- (1) 宮崎大学教育学部附属中学校には、「illuminate of Human Rights」という取組があります。この取組に込められている想いとは……

“illuminate of Human Rights”とは、「人権を照らす」という意味です。私たちは、自分たち一人一人に保障されている人権について、日常生活のなかで特に意識することはありません。私たちが自分の人権について意識するのは、多くの場合、自分の人権が何らかのかたちで侵害されたときです。だからこそ、人権が侵害されていないときにこそ、積極的に人権について語り合う時間と場をつくりだそう。そういう想いを込めて、この“illuminate of Human Rights”はつけられています。



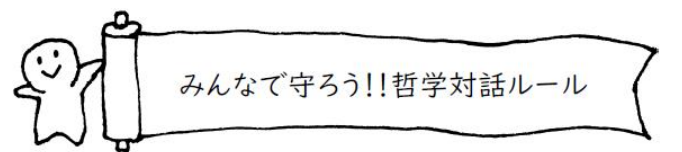
- (2) 日常生活のいろいろな場面で取り組む話し合い活動のなかにも……話し合い活動のなかにもこそ、お互いの人権を尊重し合う場面が、数多く含まれています。

- (3) 「何を話してもいい」、「ちゃんと聴いてもらえる」、「自分を尊重してもらえる」、「意見を尊重してもらえる」……私たちが日常生活のなかで、毎日、当たり前のように行っている <はなす一きく> という関係をお互いにつくっていくことこそ、お互いの人権を尊重するための第一歩ではないでしょうか。



「哲学対話」のルールって？

20



- (1) 何を言ってもいい。
- (2) 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
- (3) 発言せず、ただ聞いているだけでもよい。
- (4) お互いに問いかけようとする。
- (5) 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
- (6) 話がまともにならなくてもいい。
- (7) 意見が変わってもいい。
- (8) 分からなくなってもいい。
- (9) 人が話しているあいだは静かにきく。
- (10) 話し終わったら、次の人を指名しよう。
(発言したいときは挙手などで意思表示しよう)

